

令和4年2月27日

南の風 435

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

425号から434号まで、横浜南部地区ミニ連の指導者講習会の内容を紹介しました。

目的 ◎選手の学びを豊かにするバスケットボールの指導の在り方の共有
＜テーマ＞ ~ アスリート・センタード・コーチング ~

いかがだったでしょうか。『教えないスキル』(佐伯 夕利子氏著)を通して、私自身、「指導とは何か、を改めて考えなければ」と強い刺激を受けました。その思いを伝えたかったのです。共感していただけるところが少しでもあれば幸いです。

また恩塚 亨日本女子代表ヘッドコーチからは、講習会並びに話し合いを通して、たくさんのこと学ばせていただきました。その一端を紹介した次第です。

これからも皆さんと共に、『指導の在り方について』考えていきたいと思います。

さて今回は講習会の折に話題に上った、U15世代のオフェンスについて取り上げます。育成時代に相応しいオフェンスはどのようなものか、ということです。時間の関係で突っ込んだ話し合いにはならなかったのですが、意見交換はできました。

中学校の顧問の先生と、ミニバスチームのコーチの方との話し合いから拾ってみます。

特に多かった内容は、ピック＆ロール、オフボールスクリーンでした。

「ピック＆ロールは、どの年代から指導すべきなのでしょうか」、「ピック＆ロールを指導する際の留意点はどんなことでしょう」。また、「オフボールスクリーンは、どんな時に使えば効果的なのでしょう」などでした。

あるミニバスのコーチの方は、「私のチームでは、特にスクリーンを取り上げて指導はしていません。ドリブルドライブやパス＆ラン、ポストプレーをやっています。ただ相手チームがスクリーンを使ってきたときに、はずし方を取り上げて指導すべきか迷います。」違うチームのコーチの方は、「うちのチームは、得点を取る確率の高い選手のDefにスクリーンに行かせ、マークをはずすようにしています。他の選手には、1on1のスキルと2on2の合わせをまず指導しています。」とのことです。

中学校の顧問の方は、「スクリーンプレーは指導しています。ただ、限られた練習時間なので基本的なピック＆ロール（ダイブ）を中心にして、掛け方、使い方、はずし方をやっています。」、さらにもう一人の方は「うちは、ドリブルハンドオフからロールして、バックカットやダイブ、ポップアウトして攻めるプレーをやっていますが、時間が掛かるのが悩みです。」ということでした。

それぞれのカテゴリーの指導者のスクリーン指導に関する考え方や悩みを、聞くことができました。たいへん参考になる意見を聞かせていただきました。有意義な時間でした。

ピック＆ロールやオフボールのスクリーンプレーは、強制的にノーマークやアドバンテージを作るためのプレーと言われています。現在NBAや日本のトップリーグ、大学、高校でも各種のスクリーンプレーが頻繁に見られます。

次号では、ピック＆ロールやオフボールスクリーンの目的、使い方を考えてみたいと思います。